とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	いやなが保育園

１．活動のテーマ

＜テーマ＞　「のせる」

＜テーマの設定理由＞

当園の1歳児は、ベンチにおもちゃや牛乳パックを載せて運ぶことに興味を持ち、楽しんでいる。「のせる」遊びの中で、他の形状または手作り、市販品（円柱や三角柱や柔らかい物など）でも組み合わせて台の上に載せられるか、大きさの順番を工夫すると高く積めるか等、子どもたち自身が試しながら興味関心を深めるため。

２．活動スケジュール

【10月】テーマ決定　問いの検討、環境デザインの検討
探究活動の実践/1回
・普段遊び慣れているブロックを使って自由にのせて遊ぶ。
・手作り箱積み木・メガブロックを使って自由に遊ぶ。
【１１月】探究活動の実践/2回
・空き箱に触れ、自由に「のせて」遊ぶ。
・ジャンピングトレイン、ノックボールで「のせて」遊ぶ。
【１２月】探究活動の実践/1回
・リグノ・ネフスピール等の積み木（複数の種類）で「のせる」。
・おもちゃを「のせる」。
【１月】探究活動の実践/1回
・環境（高さが違うテーブルやベンチ、テーブル付き椅子・カーペット・柵等）を変えて積み木を「のせる」。
・チェーンリングを食べ物に見立てておままごとのお皿などに「のせる」。
【２月】探究活動の実践/1回
・パズルを「のせる」。
【3月】探究活動の実践/1回　活動内容の振り返り・まとめ
・好きなおもちゃを選んで「のせて」遊ぶ。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【おもちゃ】
〇手作り箱積み木・メカマンブロックジャイアント・様々な形の空き箱（菓子箱等）
〇ジャンピングトレイン・ノックボール
〇リグノ・ネフスピール・ベビーキューブ・ムンツ積み木・キュービックス
〇チェーンリング・おままごと道具等
〇つまみ付きパズル
【設置物】
高さを変えられるテーブル・テーブル付き椅子・柵・ベンチ・小テーブル・ジョイントマット

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

当園の1歳児は、これまでベンチにおもちゃや牛乳パックを載せて運ぶことに興味を持ち、楽しんでいた。今回の「のせる」探究活動にあたり、まず箱形の牛乳パックや、プラ製ブロック等を「上に載せられるかな？」と、子どもたちに問いかけた。さらに、箱型以外のおもちゃ（円柱や三角柱や柔らかい物など）でも組み合わせることで台の上に載せられるか、大きさの順番を工夫するとより高く積めるか等、子ども達が試しながら興味関心を深めることができるようにした。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞
・箱積み木や積み木は、上に積み重ね、崩れると「もう一回！」と笑い、繰り返していた。小さいテーブルの上に隙間なく積み木を載せて並べ、「いっぱーい！」と喜んだ。
・シンプルな形の積み木は、「おうち」「すべりだい」「階段」などイメージした言葉を発しながら積み木を並べて形を作った。
・形に特徴のある積み木と出会うと、回を重ねるごとに積極的に取り組む姿が見られ、指先の力を加減しながら高く積み上げていた。また、友達が積み上げた横から加わって一緒に積み、笑いあい、「足りないんだ」と言ったりした。
・つまみ付きパズルは、形に合わせてはめようとする前に、絵自体を楽しんだり絵合わせをしたりする子が多かった。何とかはめようとこすり、はまらないと保育者に渡したり、よそ見をしたまま「入らない～」という子もいた。保育者が「くるくるすると出来るよ」と声をかけると「こうかな？」といいながら向きを変えたり、保育者がさりげなく向きを変えることで枠にはまったりして、出来たことを喜んでいた。
・保育者たちは、動作を手伝わずに、子どもたち自身がのせ方を見つけるようにした。さらに、テーブルの高さや柵の設置などの環境を変え、遊びに変化をもたらすよう、様々なおもちゃで「のせる」活動の探究を支援した。

５．振り返り

＜振り返りによって得た保育者の気づき＞

・実施回ごとに画像やメモ記録を用いて、チームで振り返り、子どもたちがどのようにおもちゃに関わり「のせよう」としているかを共有し、次回のために工夫した。
・１歳児は指先や手の発達の個人差が大きく、「のせる」動きが出来る子もいればそれが難しい子もいる。また、「遊具を手に持つこと」「並べる」「上に乗せていく」など、一人一人が楽しんでいることも異なる。保育者が、それぞれの子どもが楽しんでいることは何かを見極め、それに共感していくことの大切さを感じた。
・遊具に魅力を感じ、繰り返し集中して遊ぶことで、うで、ひじ、指先を使って丁寧に「のせよう」とする姿があった。友達と一緒に遊びその刺激を受けることは重要だが、一人で遊び込める環境（柵やテーブル付き椅子等）も必要なのだと感じた。
・以前は、1歳年齢が高い子どもの遊ぶ様子を見て、初めから「出来ない」と諦めてしまうことがあった。１歳児だけのグループでのせる探究活動を行うことで、一人一人のペースで楽しめ積極性が現れた。
・１歳児の活動として、つまみ付きパズルは子どもがひとりで形を合わせるのは難しい様子だった。ピースが単純な形、外したときに下に絵がある、色が同じである方が、より楽しめていた。すりすりしたり、くるくるしたり、手を動かして「のせて」いるうちに偶然ピタッとはまるパズルの楽しさがわかったようだ。
・満1歳の誕生日ころから「見立て遊び」が始まる。色とりどりのチェーンリングをご飯や飲み物に見立てる遊びを「のせる」に加えたことで、「のせる」探究活動がより活発になった。保育ドキュメンテーションやlineで共有した。テーマを示すことで、職員も保護者も皆で子どもの成長を喜ぶ気持ちにつながった。